

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：35309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02511

研究課題名（和文）保育者養成をベースとした妊娠から始まる子ども子育て支援者養成カリキュラムの開発

研究課題名（英文）Development of a Curriculum for Child-rearing Supporters Starting from Pregnancy Based on Kindergarten Teacher and Nursery School Teacher Training Course

研究代表者

橋本 勇人（Hashimoto, Hayato）

川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授

研究者番号：50341144

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：幼稚園教諭・保育士養成課程に精神保健福祉士養成課程を付加することにより、「発達障害児を含むあらゆる子どもを対象とした幼児教育・保育と、妊娠出産からはじまる子育て支援の双方を修得できる保育者養成」として、平成29年度からA大学B学科がスタートした。本研究では、現在の地方自治体に求められている機能の鳥観図を作成し、この機能を果たすために、既存のA大学B学科のカリキュラムをPDCAサイクルに基づき修正して、実践力の高い保育者養成として完成度を高め、実践の理論的背景の一部を示し、カリキュラムの大学4年間での実現可能性を証明し、教育と福祉の双方を実施できる子ども支援者の社会的有用性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

こども家庭庁の設置とこども基本法の施行は、保育所などの多機能化に対応でき、連携力のある保育士や幼稚園教諭を必要としている。本研究は、幼稚園教諭・保育士養成課程に精神保健福祉士養成課程を付加することにより、「発達障害児を含むあらゆる子どもを対象とした幼児教育・保育と、妊娠出産からはじまる子育て支援の双方を修得できる保育者養成」の具体的内容と理論的な根拠を示すとともに、実際に卒業生を輩出することにより実現可能性を示したことに学術的意義と社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：By adding a mental health worker training course to the kindergarten teacher and nursery teacher training courses, University A's Department B was launched in fiscal year 2017 as a "training program for childcare professionals who can acquire both early childhood education and care for all children, including children with developmental disabilities, and childcare support starting from pregnancy and childbirth. In this study, we 1) created a bird's-eye view of the functions currently required by local governments, 2) revised the existing curriculum of University A, Department B based on the PDCA cycle to fulfill these functions and improve its completeness as a training program for childcare professionals with high practical ability, 3) presented part of the theoretical background of the practice, and 4) proved the feasibility of the curriculum in four years at the university. 5) The social usefulness of child caregivers who can implement both education and welfare is demonstrated.

研究分野：子ども学および保育学関連

キーワード：こども基本法 こども家庭庁 多機能化 保育士養成 幼稚園教諭養成課程 精神保健福祉士養成課程  
妊娠出産 インクルーシブ保育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

フィンランドのネウボラをモデルとして、妊娠期から子育て期にわたるまでの支援を行う「子育て世代包括支援センター」が設置され、全国展開をめざしていくとされている。同時に保健分野から障害児を含む保育・幼児教育への接続も必要となってくる。このように見てくると、保育学を学ぶ者(幼児教育だけではなく保育場面のケアワークを含む)は、妊娠出産からはじまる子ども子育て支援と、他職種との連携力を含む価値・知識・技術(ソーシャルワークを含む)を同時に身につける必要がある。換言するならば、人の一生あるいは出生前をも含めてライフコースととらえ、あらゆる子どもを対象としたインクルーシブな幼児教育・保育と、出生以前から始まる子育て支援の両者を一体として修得した保育者の養成が必要とされている(図1)。幼児教育・保育を中心とするインクルーシブな子ども支援と、妊娠出産からはじまる子育て支援の双方を修得した保育者を養成できるカリキュラムは存在せず、妊娠・出産から小学校就学の始期にいたる切れ目のない子ども子育て支援者養成カリキュラムを開発する必要性は高い。

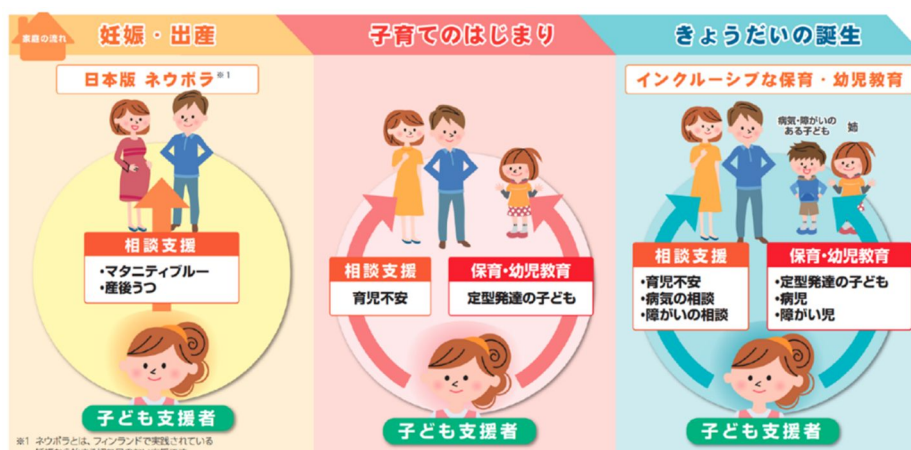


図1 妊娠・出産からはじまるあらゆる子どもと保護者の支援

### 2. 研究の目的

幼稚園教諭・保育士養成課程に精神保健福祉士養成課程を付加することにより、「発達障害児を含むあらゆる子どもを対象とした幼児教育・保育と、妊娠出産からはじまる子育て支援の双方を修得できる保育者養成」として、平成29年度からA大学B学科がスタートした。本研究の目的は、メゾレベルの現在の地方自治体に求められている「機能」の鳥観図を作成すること、この機能を果たすために、既存の大学カリキュラムをPDCAサイクルに基づき修正して、実践力の高い保育者養成として完成度を高めること、実践の理論的背景の一部を示すこと、カリキュラムの大学4年間での実現可能性を証明すること、教育と福祉の双方を実施できる子ども支援者の社会的有用性について示すことを目的としている。

### 3. 研究の方法

今回の研究では、まず、メゾレベルの地方自治体に求められている機能を知るため、妊娠出産からはじまる子育て支援制度のもととなったフィンランドのネウボラ調査(2回)、行政(子育て世代包括支援センター等)での聞き取り調査、地域の先進的な福祉施設での聞き取り調査等を実施した。次いで、これらの調査結果を基に、共同研究者(授業担当者)の経験を加味して、保育者養成校(A大学B学科)でカリキュラムマネジメントを実施し、具体的な授業内容を確定した。その際、授業実践だけではなく、理論的背景を考察した。さらに、4年間ではやや過密になることが予想されたカリキュラムの実現可能性を、1期生から4期生までの実際の資格取得者数及び取得率により証明した。さらに、教育と福祉の新しい関係性に関して、従来のスクールソーシャルワーカー活用事業との比較をすることにより一定の方向性を示した。

### 4. 研究成果

(1) (研究途中に創設された) こども家庭庁も視野に入れた、地方自治体に求められる連携メゾレベルの現在の市町村に求められている「機能」の鳥観図は以下の内容である(図2)

(2) 実施したカリキュラムの内容

#### 日本国憲法

日本国憲法自体は幼稚園教諭免許状取得の必修科目であるが、学科の教員自身が「保育と日本国憲法」というテキストを出版し、1年次に「少数者の人権保障=多様性」の重要性を、憲法の人権論と幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領や保育現場とを結びつけながら講義することをスタート点とした。

#### 子ども医療福祉総論

様々な機能を取り入れた科目構成が遠心力(バラバラになる危険性)として働かないようにするため、人と環境との相互作用、ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン、ICF、医療・保健・福祉・教育の関係、高齢者分野の医療福祉から子ども分野の医療福祉へ、ライフステージ論とライフコース論、ソーシャルワーク・ケアワーク・教育の関係(融合論)などの考え

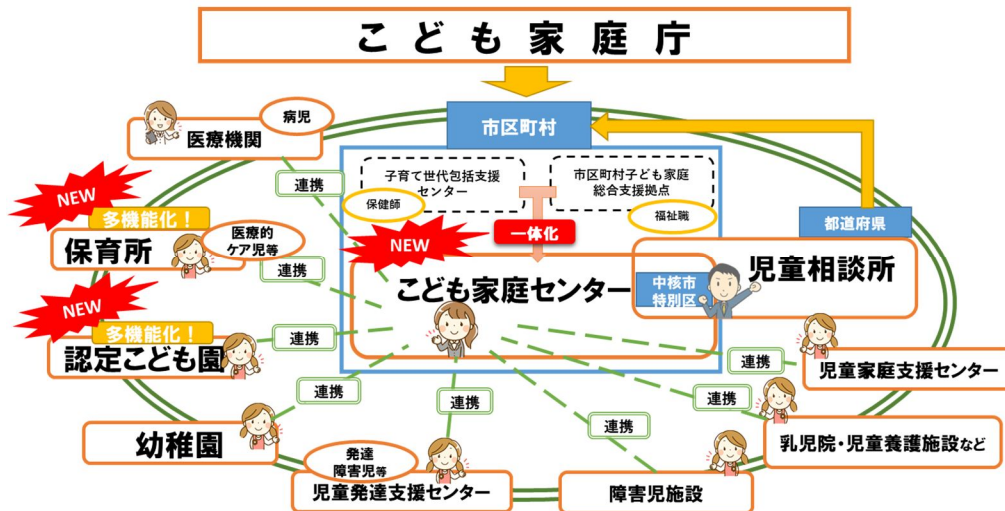


図2 こども家庭庁と地方自治体に求められる機能

方を、保育の学習が進んだ2年次に講義した。

#### 医療福祉系科目

世界初の医療福祉大学での保育者養成の特徴を活かして、保育士養成の「子どもと保健」や精神保健福祉士養成の「医学概論」「精神医学と精神医療」に加えて、「小児科学」「母性・小児看護」「救急措置法」「小児ケア方法論」「障害児のケアと発達支援」などの科目を開講し、医療と保健と福祉との連携・多機能化に対応できる基礎知識の習得を目指した。

#### 精神保健福祉士系科目

社会福祉士と精神保健福祉士の共通科目(社会保障など)は、基礎領域と応用領域に分け、原則として(基礎領域)を必修とし、(応用領域)を選択とすることにより、原則必修の保育者養成との調和を図った。

#### 病児・医療的ケア児保育実習

病児・医療的ケア児保育実習では、3年次の秋学期に、病棟実習と病児・医療的ケア児保育実習合わせて45時間行った。川崎医科大学附属病院の小児病棟で病棟保育を、同医療保育室で病児保育実習を行い、他の2つの保育園で医療的ケア児保育実習を行った。

#### 発達障害児のケアと発達支援実習

発達障害児のケアと発達支援実習では、4年次の秋学期に、学内実習・学外実習の往還的な形態で45時間実施した。具体的には、個別的な評価(観察)、個別的な目標設定と計画立案、発達や障害特性に応じた環境構成や支援方法、こどもに対する介入(指導)、再構造化・計画や活動の調整である。これらを、5週間、公立保育園・認定こども園(拠点園)、児童発達支援センター、特別支援学校(小学部1年生)で実施した。なお、通常の保育者養成や医療・保健・福祉系の科目だけでは十分とは言えないPlay(遊び)の技術を習得するため、「子どもと遊びの指導法(障害児・病児の遊びを含む)」を開講した。

#### 精神保健福祉援助実習

精神保健福祉援助実習では、4年次の春学期に精神科医療機関で12日間(90時間)以上、障害者福祉サービス事業を行う施設で約16日間(120時間)(精神科医療機関との合計が28日210時間以上)の実習を実施した。

### (3)「子ども医療福祉」の理論的背景

#### ライフコース論(多様性)とライフステージ論

人の一生を考えるうえで、ライフサイクル論を前提に、それぞれのライフステージを考える手法が用いられてきた。ライフサイクル論は、全体性を考慮しているという点で、画期的ではある。特に画一的な対応を必要とする制度論を考えたときには、一般的なライフサイクルの中で、ライフステージを考えるということに一応の合理性はある。しかし、現在、対人援助の領域の多くでは、従来のライフサイクル・ライフステージ論に変わり、生態学的な概念であるライフコースを用いている。ライフサイクルモデルに基づくライフステージは固定されており、連続的で、あらかじめ予想がつき、普遍的であるのに対し、ライフコースは、多様な環境と文化、そして、妊娠、出生から老年までの様々な生活経験のなかで、人間の独自の予測できない道筋として考えられる。また、医療や福祉の共通の基盤となる国際生活機能分類(ICF)とも、より整合性がある。「子ども医療福祉」を考えるに際し、制度論や学習過程としてのライフサイクル論の有効性を認めつつ、「子ども医療福祉」の援助の視点としては、ライフコース論によることになる。

#### 医療保育領域

前述のごとく「人の一生」を考えたとき、医療福祉学は高齢者医療福祉領域で完結するものではなく、「子ども」の領域でも必要となる。現在の医療(治療)・福祉(生活)・教育の関係を図示した。1人当たりの医療費と医療の必要性は同義ではないが、一応の相関があると考えるとよく、1人当たりの医療費は、新生児・乳幼児期は高額であるが、その後いったん下がり、65歳以上、75歳以上と加齢に伴い上昇する。また、福祉(生活)と教育の関係をイメージでは、3歳頃(幼

稚園・保育園の年少クラス等)から教育の占める割合が増加しはじめ、義務教育就学後から最高に達する。また、定年退職後も、社会教育・生涯学習として教育は、生活の中で一定の割合を占めることを示している。年齢をもとにすると、右の部分が「高齢者医療福祉」で扱う領域であり、左の部分が「医療保育」領域ということになる。

#### ネウボラの考え方

こども基本法やこども家庭庁設置法では、子どもだけを対象とするのではなく、母親ら家族を対象とした妊娠・出産から始まる切れ目のない総合的な支援体制と実践がようやく緒についた。この制度改正の際、参考とされたものの一つが、フィンランドで実践されている「ネウボラ」である。「ネウボラ」とは、アドバイスの場という意味で、妊娠期から出産、そして就学前までの子どもの成長・発達の支援と、母親・父親・きょうだい等を含む家族全体の心身の健康サポートも目的とした制度であり、本場フィンランドでは、現在も改良・進化し続けている。2005(平成17)年創設の川崎医療短期大学創設時は、「医療保育」領域を想定したが、2017(平成29)年開設の川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科開設にあたっては、フィンランドの「ネウボラ」(図1)の考えに基づき、対象を父母やきょうだいなどの家族に範囲を広げている。

#### ソーシャルワークとケアワークの関係(融合論)

社会福祉と関係する専門職養成課程を、ソーシャルワークとケアワークの関係に焦点を当ててみたとき、ソーシャルワークとケアワークの「融合論」・「分離論」の論争に続き、2008(平成20)年以降ソーシャルワーカーの国家資格である社会福祉士(精神保健福祉士を含む)とケアワーカーの国家資格である介護福祉士との関係では、「分離論」による制度設計がなされた。これに対して、社会福祉士(精神保健福祉士を含む)とケアワーカーと位置付けることのできる保育士との関係では、「融合論」の余地を残した制度設計のまま、今日にいたっている。子ども医療福祉学科は、橋本の、ソーシャルワークとケアワークの関係について、ボランティア等の体験部分、ソーシャルワークとケアワークの共通部分、ソーシャルワーク独自の基礎的な部分、卒後教育が担当するソーシャルワークの専門的な部分の段階になっているとの結果に基づき、「融合論」に幼児教育を付加したものを基礎とする制度設計がなされている。なお、「子ども学」の中心的な考えの一つも、「生態学を基礎とする人と環境との相互作用」を基礎とする学問であることから、「子ども学」と「ソーシャルワーク」はこの点でも理論的整合性がある。

#### ジェネリック・ソーシャルワークとスペシフィック・ソーシャルワークとの関係

このように融合論によったとしても、なぜソーシャルワークとして精神保健福祉士養成を採用したのが、ジェネリック・ソーシャルワークとスペシフィック・ソーシャルワークとの関係で問題となる。ジェネリック・ソーシャルワークとスペシフィック・ソーシャルワークに関しては、1929年のミルフォード会議報告書で初めてこの概念が用いられ、パートレットが深化させた。そうすると、社会福祉士養成がジェネリック・ソーシャルワークに近く、精神保健福祉士がスペシフィック・ソーシャルワークに近いと考えるならば、社会福祉士養成を基礎としない精神保健福祉士養成は、ジェネリック/スペシフィックの考えと整合性が取れなくなる可能性があるからである。しかし、現在の社会福祉士と精神保健福祉士の「共通科目」と「独自科目」の関係を再吟味したとき、ジェネリック=共通科目、スペシフィック=専門科目と考えるのが自然であり、単独で精神保健福祉士養成をすることもジェネリック/スペシフィックの歴史に反しないのではないかと考えるようになった。そのうえで、障害者基本法等の改正により精神障害に発達障害が含まれることとなったため、発達障害児保育コースと親和性があること、精神保健福祉士の仕事には、マタニティーブルーや産後うつへの対応が含まれており、ネウボラに近いことから精神保健福祉士養成を採用した。

#### ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点

ジェネラリストの定義には明確なものはないが、人と環境、個人と社会(制度)、そしてその相互作用を捉え、さまざまな援助方法を用いて援助してきたこと、共通する特徴は、さまざまな理論を拠り所とする方法を折衷的に活用する方法的多様性援助対象を捉える包括的な視点であるとされる。この点、「子ども医療福祉」は、人と環境との相互作用・交互作用をベースに、子ども自身や家庭といった「ミクロ」のレベルだけではなく、子ども子育て支援施設・地域といった「メゾ」のレベル、全国的な制度等をも含む「マクロ」のレベルを統合したジェネラリストの視点での援助を想定している。

#### (4) カリキュラム実現可能性

8年間(卒業生は1期生から4期生)で318名の学士(子ども医療福祉学)を送り出し、そのうち316名が保育士(取得率99.4%)、302名が幼稚園教諭1種免許状を取得するとともに(取得率95.0%)、精神保健福祉士にも44名が合格し(合格率95.7%)、保育者養成をベースとした妊娠から始まる子ども子育て支援者養成カリキュラムの実現可能性を証明できたと考えている。

#### (5) さらなる可能性: 2021年の中教審答申以後の教育と福祉の新しい関係性の仮説

また、2021年の中教審答申以後の教育と福祉の新しい関係性(特定分野の強みや専門性をもつ2種教諭養成)を題材として、たとえば保育・教育に加えてソーシャルワークの専門性を修得した「特定分野の強みや専門性」を有した多様性のある教員集団は、今日重要性の増している組織内外の専門職連携の問題も解決できる可能性があると考えた。

学校外の家庭や地域の問題解決のために、2008(平成20)年には、文部科学省の新規事業「スクールソーシャルワーカー活用事業」が全国展開された。しかし、スクールソーシャルワーカー(SSW)は学校内部の情報や生徒の課題を全て知らされていないわけではない。ここに、あやふや

な機関の承認と組織的な支持になりやすい SSW 等分離型（外付け型）の専門職連携の限界がある。これに対して、今回の特定分野の強みや専門性をもつ 2 種教諭養成では、ソーシャルワーカー等の強みを持った者が教諭として学校に採用されることになる（融合型（一体型））。そうすると、学校内部の情報や生徒の課題を知ることができ、あやふやな支持や承認という分離型（外付け型）の問題点を克服することができ、学校内の連携の問題も克服される。ただし、特定の者が生徒指導等を担うとなると、教員の働き方改革の点の問題が生じる可能性がある。この融合型（一体型）と SSW 活用に代表される分離型（外付け型）を併用すること（併存型）が、学校・家庭・地域の問題解決の最適解ではなかろうか。この併存型では、多様性のある教員集団の一つとして、校内の福祉を基礎とする教諭が SSW と連携したり、あるいは場合によっては、福祉を基礎とする教諭自身が校内での連携を基礎に、「家庭や地域」との問題解決に当たることになる。

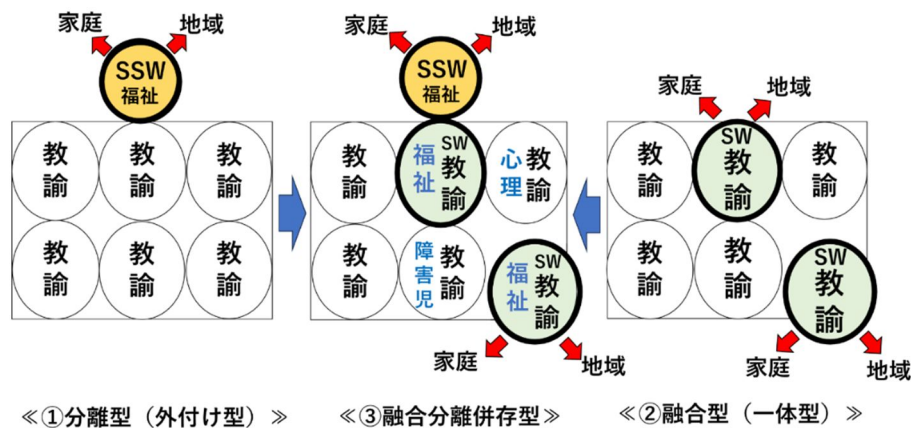


図3 教育と福祉の専門性を有する子ども支援者による学校における新しい形の連携

#### 参考文献

- 1) H.M. パートレット著, 小松源助訳: 社会福祉実践の共通基盤. ミネルバ書房, 京都, 1978.
- 2) Germain CB and Gitterman C: The Life Model of Social Work Practice. 2nd ed, Columbia University Press, New York, 1996.
- 3) 橋本勇人: ソーシャルワークとケアワークの共通性を基盤としたソーシャルワーク教育の探求. 平成18年度・19年度文部科学研究費補助金 基盤研究 C(18530470) 報告書, 1-9, 2008.
- 4) 橋本勇人: 医療福祉学から医療保育への示唆 ライフコース・医療と福祉の統合・ソーシャルワークとケアワークの関係. 川崎医療短期大学紀要, 29, 37-41, 2009.
- 5) 橋本勇人: ソーシャルワークとケアワークの関係 再融合論に基づく, 新しい「子ども支援者養成」の試み医療福祉学から医療保育への示唆. 川崎医療短期大学紀要, 36, 47-51, 2016.
- 6) 橋本勇人, 尾崎公彦, 笹川拓也, 末光茂: フィンランドのECECとネウボラ等の視察から日本への示唆. 旭川荘研究年報, 51(1), 65-66, 2020.
- 7) 橋本勇人, 松本優作, 荻野真知子, 岡正寛子, 森本寛訓, 中川智之: フィンランドのネウボラから見た日本の子どもを取り巻く支援体制 A市の実際と, 高橋睦子の所説を起点とした芬日比較. 川崎医療福祉学会誌, 32(1), 139-146, 2022.
- 8) 橋本勇人: 子ども医療福祉の実践と理論的背景. 川崎医療福祉学会誌, 33(2), 271-279, 2023.
- 9) 橋本勇人: 多様性を包摂する教育と福祉の関係 多様性を支える日本国憲法とともに. 日本学校教育学会年報, 6, 72-88, 2024.
- 10) 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科: 10年先を見据えた子ども医療福祉学科では, 「こども庁」「子ども庁」「子ども家庭庁」に対応した保育者養成を実現しています!. <https://w.kawasaki-m.ac.jp/kodomo/10yearsahead/>, 2021. (2023.12.6 確認)
- 11) 川崎医療福祉大学子ども医療福祉学科: こども家庭庁関連採用・就職 保育士・幼稚園教諭 1種+ 精神保健福祉士で実現. 子ども医療福祉学科ホームページ. (2022.9.1 確認)
- 12) 厚生労働省社会・援護局長: 社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について (社援発第0328001号). 2008.
- 13) 厚生労働省: 児童福祉法施行規則第六条の二の二第一項第三号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法 (平成22年7月13日厚生労働省告示第278号). 2010.
- 14) 無藤隆: 幼児教育のデザイン 保育の生態学. 東京大学出版会, 東京, 2013.
- 15) 岡田喜篤: 医療福祉学の展望. 川崎医療福祉学会誌, 増刊号, 7-16, 2007.
- 16) 大和田猛編著: ソーシャルワークとケアワーク. 中央法規出版, 東京, 2004.
- 17) 高橋睦子: ネウボラ フィンランドの出生・子育て支援. かもがわ出版, 京都, 2015.
- 18) 米本秀仁: 介護保険分野における社会福祉士実習のあるべき姿. 社団法人日本社会福祉士養成校協会編介護保険分野における社会福祉士養成実習のモデル構築に関する研究, 15-27, 2009.
- 19) 全米ソーシャルワーカー協会著, 竹内一夫, 清水隆則, 小田兼三訳: ソーシャル・ケースワークジェネリックとスペシフィック ミルフォード会議報告. 相川書房, 東京, 1993.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 橋本勇人・松本優作・荻野真知子・岡正寛子・森本寛訓・中川智之	4. 巻 32
2. 論文標題 The Support System Surrounding Children in Japan from the Perspective of Finland's NEUVOLA	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 139 ~ 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15112/00014984	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 松本優作・橋本勇人	4. 巻 32
2. 論文標題 Differences in Perceptions of Multidisciplinary Collaboration between Mental Health Social Workers and Nursery and Kindergarten Teachers: Focusing on Differences in Expertise	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 147 ~ 157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15112/00014985	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 橋本勇人・中川智之・森本寛訓・岡正寛子・松本優作・荻野真知子・橋本彩子・星野さくら	4. 巻 75
2. 論文標題 こども庁に対応できるニューボラを起点とした保育者養成の取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本保育学会大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 K-71 ~ K-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松本優作・橋本勇人・岡正寛子・森本寛訓・橋本彩子	4. 巻 70
2. 論文標題 日本の子どもを取り巻く支援体制に関する事例と課題 - こども家庭庁成立前のA市における支援事例からの考察 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本社会福祉学会秋季大会報告要旨集	6. 最初と最後の頁 131 ~ 132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中川智之・岡正寛子・森本寛訓・重松孝治・松本優作・荻野真知子・橋本勇人	4. 巻 32
2. 論文標題 こども家庭庁に対応した新しい多機能型保育者実習の実践 「病児・医療的ケア児保育実習」、「発達障害児保育実習」、「精神保健福祉援助実習」の実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本乳幼児教育学会大会研究発表論文集	6. 最初と最後の頁 22～23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本勇人・尾崎公彦・笹川拓也・中川智之・大江由美・青井則子・岡田恵子・伊藤智里・入江慶太・橋本彩子・松本優作	4. 巻 72
2. 論文標題 ミクロ・メゾ・マクロレベルを統合した保育者のキャリア支援 - 概ね10年以下の保育者を中心として -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本保育学会大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 115-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川智之・橋本勇人	4. 巻 38
2. 論文標題 平成29年改訂（定）を踏まえた幼児期の教育と小学校教育の接続の再考：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 川崎医療短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川智之・橋本勇人・入江慶太・尾崎公彦・笹川拓也・大江由美・三宅美智子・重松孝治・橋本彩子・岡正寛子・種村暁也	4. 巻 38
2. 論文標題 幼稚園教諭養成課程における「領域に関する専門的事項」に求められる授業内容に関する一考察：保育内容領域「人間関係」及び「環境」のモデルカリキュラムを手がかりとして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 川崎医療短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本勇人・中川智之・森本寛訓・松本優作・荻野真知子	4. 巻 76
2. 論文標題 こども家庭庁、保育所・認定こども園の多機能化に対応した保育者養成	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本保育学会大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 K321-K322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川智之・橋本勇人・狩谷明美・狩谷尚志・末光茂	4. 巻 55(1)
2. 論文標題 人口減少社会における医療福祉専門職のあり方 フィンランドのラヒホイタヤから日本への示唆	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 旭川荘研究年報	6. 最初と最後の頁 101-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本勇人	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 子ども医療福祉の実践と理論的背景	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 271-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本勇人	4. 巻 6
2. 論文標題 多様性を包摂する教育と福祉の関係 多様性を支える日本国憲法とともに	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本学校教育学会年報	6. 最初と最後の頁 72-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 橋本勇人・中川智之・森本寛訓・岡正寛子・松本優作・荻野真知子・橋本彩子・星野さくら
2. 発表標題 子ども庁に対応できるネウボラを起点とした保育者養成の取り組み
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本優作・橋本勇人・岡正寛子・森本寛訓・橋本彩子
2. 発表標題 日本の子どもを取り巻く支援体制に関する事例と課題 - こども家庭庁成立前のA市における支援事例からの考察 -
3. 学会等名 日本社会福祉学会第70回秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中川智之・岡正寛子・森本寛訓・重松孝治・松本優作・荻野真知子・橋本勇人
2. 発表標題 こども家庭庁に対応した新しい多機能型保育者実習の実践 「病児・医療的ケア児保育実習」、「発達障害児保育実習」、「精神保健福祉援助実習」の実践
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第32回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本優作・尾崎公彦・中川智之・岡正寛子・荻野真知子・橋本勇人
2. 発表標題 発達障害児支援に携わる保育士の多職種連携スキルの現状と課題
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第31回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笹川拓也・橋本勇人・尾崎公彦・中川智之・入江慶太・藤澤智子・岡正寛子
2. 発表標題 コロナ禍から「ポスト・コロナ」時代のディプロマポリシーからスタートする専門職養成に関する一考察 カリキュラムマネジメントを踏まえた保育教育実践
3. 学会等名 日本保育者養成教育学会第5回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本勇人・尾崎公彦・笹川拓也・末光茂
2. 発表標題 フィンランドのECECとネウボラ等の視察から日本への示唆
3. 学会等名 旭川荘医療福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本勇人・笹川拓也・岡正寛子・松本優作・中川智之・大江由美・荻野真知子・土田耕司・橋本彩子・藤澤智子
2. 発表標題 日本版ネウボラにおける精神保健福祉士の必要性と可能性 - 子育て世代包括支援センターとの連携の可能性を中心として -
3. 学会等名 第4回日本保育者養成教育学会研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本勇人・中川智之・橋本彩子・松本優作
2. 発表標題 妊娠から始まるあらゆる子どもと保護者の支援を可能にする支援者養成に関する一考察 - 精神保健福祉士と保育者の果たし得る役割と専門性 -
3. 学会等名 日本保育者養成教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	笹川 拓也 (SASAKAWA Takuya)  (00413518)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・准教授  (35309)	
研究分担者	大江 由美 (OOE Yumi)  (20791411)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師  (35309)	
研究分担者	品川 佳満 (SHINAGAWA Yoshimitsu)  (30347702)	大分県立看護科学大学・看護学部・准教授  (27501)	
研究分担者	荻田 聡子 (OGITA Satoko)  (40309555)	川崎医科大学・医学部・講師  (35303)	
研究分担者	中川 智之 (NAKAGAWA Tomoyuki)  (50462049)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授  (35309)	
研究分担者	日下 知子 (KUSAKA Tomoko)  (70369768)	川崎医療短期大学・その他部局等・准教授  (45309)	
研究分担者	岡田 恵子 (OKADA Keiko)  (80413524)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師  (35309)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	重松 孝治 (SHIGEMATSU Kouji) (80461242)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師  (35309)	
研究分担者	山脇 彩子 (YAMAWAKI Ayako) (30826920)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・助教  (35309)	
研究分担者	松本 優作 (MATSUMOTO Yusaku) (50826542)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師  (35309)	
研究分担者	末光 茂 (SUEMITSU Shigeru) (80235837)	社会福祉法人旭川荘（総合研究所特別研究部門）・特別研究部門・所長  (95303)	
研究分担者	森本 寛訓 (MORIMOTO Hiromichi) (40351960)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・准教授  (35309)	
研究分担者	岡正 寛子 (OKAMASA Hiroko) (20410938)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師  (35309)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関